

今更ながら、あとがきです(笑)

さて、みなさま、私の執筆処女作である「再会～REUNION～」全5部お読みになられましたでしょうか？

…読んでからでない、ここから先は読んで欲しくないなあ…

一部ネタバレしそうです(笑)

まあネタバレになるかならないか、微妙な線を書いていこうと思います。

さて、今回の作品、なんで書こうと思ったかという、なんてことはない「書いてみようと思ったから」です。

あ、そうじゃない？

まあきっかけはありまして、ある日夢で見たんです。

今回の作品の最後のシーンみたいな感じのものを。

あとは記憶があやふやで、よく覚えてないのですが、雰囲氣的にラブラブで、でもなぜか再会してさらにラブラブという、まあハッピーな感じはあるんだけど、どこか不思議な感じがしたんですね。

それがどうもなにか引っかかり感と言うのがしばらくありまして、じゃ書いてみようかと思った次第です。

記憶の上ではその1シーンしか覚えてなかったのにも関わらず、あれだけの容量に達したのは、それもこれも、私の想像力…いや、願望も多少はありますね。

それらをどんどん膨らませ、ストーリー性も気をつけ、できるだけその場の雰囲気を捉えられるようエピソードも考え、そしてキャラクターも考え…。

それで実際書いてみると、まあ2部目ぐらいまでは、結構すんなり書けまして、2ヶ月ぐらいで2部を書き上げてしまったんですが、そこから先は話の展開を考えるとともに、感情移入などもあり、なかなか文章を書き綴る事が苦しくなってきました。

いや～…こういう小説を書いている先生方は、みなさまこういう気持ちになって、モチベーションが下がったりする事があるのでしょうか？

3部目ならまだいいのですが、4部目はホントに苦しかったですね。

話の展開上ドロドロしたものではありませんが、混沌としていて。

考えて書いている私が、よくわからなくなってしまうことしばしば。

1日1行しか書けない、いや全く書けない日もありました。

そんなこんながあり、また個人的に早く書き上げないと…というもありまして、1年半近く掛かり書き上げました。

その個人的なことが無ければ、書きあがるのは3年ぐらいかかってたかもしれません(笑)

その個人的なこととは、私の異性の友人がめでたく結婚する事になったのですが、そのご主人が東京に転勤になるという事で、もう彼女とは会えなくなるな、この作品読んで欲しいな…っていう気持ちが、私を奮い立たせまして、書き上げられたんです。

彼女は私にとって、非常に大切に、非常に勉強させてくれる女性として、相談したりされたり、喧嘩したりもありましたが、仲良く遊んだりたくさんしたり、楽しい時間とためになる時間や考え方を伝えてくれた、ホントに親友と呼べる女性でした。

なので、この作品読んで欲しかったんですよね。

あえて感想を聞くことはせず、プリントアウトしたものを手渡して、その後は一応1度は読んで、そしてゴミになったことでしょう(笑)

彼女のために書いたわけではないんですけどね。

恋愛ネタは見てもらいたかったなど、まあそれだけです。

あとはもう一人の同姓の親友にも読んでもらいたいなあ…ネット環境があれば読めるから、見てもらいたいけど、親友相手だと、そういう連絡すら忘れます(笑)

親友相手だと、そんなもんでしょう(謎)

と、話が逸れに逸れまくりましたが(笑)

こういうお話になりました。

ちなみにキャラクターの名前ですが、これは結構あっさり決まりました。

主人公のカスガは、漫画「きまぐれオレンジロード」に春日恭介から取りました。

彼女のミュキは、…はずかしながら、私の初恋の人の名前から(爆)

で、美優は、前にいた女友達にも絡めて付けました。

トシは…これはいろいろ考えた上で適当に決めたんです(爆)

誰からも取ってません。

アイちゃんも同様ですが、これは直感的に。

出版社の斉藤さんも適当です。

名前に関してはそんなところですね。

あ、もちろんキャラクターの名前じゃなくて、キャラクター自体のモデルもあります。

あ、俳優さんで…ですけど。

カスガ→二宮和也くん(嵐)

ミュキ→池脇千鶴ちゃん(宮崎あおいちゃんでも可)

アイちゃん→加藤夏希ちゃん

トシ→杉浦太陽くん

ミュキの母→高畑淳子さん

ミュキの父→柴田恭平さん

出版社の斉藤さん→佐々木蔵之介さん

…と、こんな感じです。

どうでしょう？お読みになられた皆さん、イメージは合いますでしょうか？

これを書いた2007年ぐらいでも、年齢が役と合いませんが、でも雰囲気的にはそんなところですよ。

さて、お話のほうで、きっと不可解に思われるところが多々あると思います。

特に第4部と第5部は、非常に我ながら混沌としているなと思います。

確かに書いているときは、非常に感情移入して書いていたこともあり、モチベーションが下がってはいましたが、決して無下に書いたわけではありません。

矛盾もたくさん感じ取れるところがあると思いますが、これもわざとです。

読み返せば読み返すほどおかしいと思われると思いますが、それは主人公の精神面を重視した結果です。

それに記憶というのは、それぞれ案外あいまいな物です。

しっかり覚えすぎている、リアルさが出ないと思ったんですね。

リアルに雰囲気を読んでもらいたかったからです。

あんな真剣なシーンで、他の事をいろいろ考えるのも、カスガのキャラクターに合いませんし。

なので、難しく考えて読まないでください。

そういうシーンなんです。

そういう精神上的の都合なんです。

あ、もし誤字がありましたらごめんなさい。

一応自分で直したところもあるのですが、きっと漏れがあります。

その辺はご容赦ください。

で、次回作ですが、未だ未定です(笑)

アイデアはあるんですが、なかなか時間が取れないということもあり、なかなか手掛けられずにいます。

でもまた書きたいなという気持ちはありますので、書き上げた際にはまた読んでいただけると幸いです。

それではまたいつか、書面でお会いしましょう。

いつになるかはわかりませんが…

2010年6月6日 思いつき作家つばさちより(笑)

